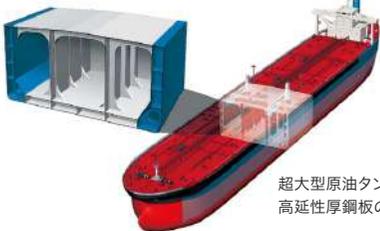


[リスク分析結果]

対象	重要な依存/影響	リスクの種類	対象要因・事象
直接操業 製鉄所における 生産活動	水質汚染 (影響)	物理 (急性)	製鉄所の排水や漏洩による、周辺水環境の汚染や水質事故の発生
間接操業 (サプライチェーン上流) 鉄鉱石・原料炭の 採掘活動	陸域生態系の利用 (影響)	物理 (急性)	サプライヤーが、採掘活動により操業エリアを含む土地破壊を引き起こし、事業活動が一時的に停止
	陸域生態系の利用(影響)	移行 (市場)	投資家の陸域生態系の利用や水資源保全に対する意識向上に伴うESG投資の活発化により、サプライヤーが陸域の土地破壊や水資源の過剰利用などの問題を引き起こしたり、投資家に対して適切な開示を実施しなかった場合 ● サプライヤーのブランド価値が低下 ● サプライヤーの資金調達が悪化し事業撤退
	水資源の利用(影響)	移行 (評判)	地域住民・環境団体の、陸域生態系の利用や水資源保全に対する関心の増加により、サプライヤーが水関連問題を引き起こしたり、適切な開示を実施しなかった場合 ● 地域住民や環境団体から批判を受け、対象地域でのサプライヤーの事業継続性が低下 ● ニュース等の情報からサプライヤーの評判が低下

当社への影響	当社の戦略
<ul style="list-style-type: none"> ● 追加的な排水処理コストの増加。 ● 既存の処理施設で対応できない場合は生産プロセスの一時的停止。 ● 基準値超過による、罰則や罰金支払の可能性がある。 	<p>【目標】 重大な環境法令違反・環境事故ゼロ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 排水や漏洩による水質汚染に関しては、生態系への影響リスクのある地域に位置するか否かにかかわらず、すべての製造拠点で発生しうるリスクと捉え、発生を想定したハード・ソフト面の対策を全社で実施している。 (ハード対策) 排水自動監視装置、排水遮断ゲート、緊急貯水槽 等 (ソフト対策) 点検・補修、作業標準整備、動作確認・手順習熟訓練 等 (水環境への対策の詳細は、P.80 を参照) ● 各事業拠点での環境事案は、発生後速やかに情報が本社に報告される体制を整備しており、発生状況は、年2回、担当副社長を委員長とする環境技術・管理委員会で報告され、取締役会へ報告し、監督を受けている。
<ul style="list-style-type: none"> ● 原料サプライヤーが問題を起こした場合、そこから原材料を調達することによる企業イメージの低下・製品の売上減少。 ● 調達先の事業活動が停止した場合、原材料の調達量が制限され、製品の生産量が減少。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 当社は、総合的なリスク対策として原料調達先を分散させており、一部サプライヤーからの調達が一時的に停止した場合でも、他のサプライヤーから調達量を増やす事で事業を継続できる体制を整えている。 ● サプライヤーの活動の中に自然に対して影響を及ぼすものがある事を認識し、今後のサプライヤーとのエンゲージメントにおいてもサプライヤーの自然関連の活動状況を確認していく。 <p>原料調達先におけるサプライヤーの活動例 (Vale)</p> <p>(陸域生態系)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2025年までに危険性のある滓鉱ダムをなくすための対策強化 など (水資源) ● 操業用の用水の84%で循環水を使用(2023年実績) ● 2027年までに、淡水の原単位使用量を基準年である2017年比で20%削減
	 <p>Vale社 ESGポータル/Sustainable mining/Nature</p>

[機会分析結果]

対象	重要な依存/影響	機会の種類	対象要因・事象	当社への影響	当社の戦略
<p>直接操業 当社グループの 自然関連の諸活動</p>	<p>自然全般 (影響)</p>	<p>移行 (製品とサービス・ 評判)</p>	<p>自然・生物多様性の保全に対する社会的な関心やニーズの増加による、環境配慮型製品の需要拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● エコプロダクツのラインナップ拡充や製造体制強化による生産増加と環境配慮型製品の収益増加。 	<p>自然再興や環境に配慮した様々な製品の供給拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 鉄鋼スラグを原料とした海域環境改善や藻場再生(海洋施肥材:ビバリー®ユニット) ● 海洋安全性の向上を通じて油濁などの環境破壊リスクを軽減する、船体用高延性厚鋼板  <p>超大型原油タンカーへの高延性厚鋼板の適用例</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 環境負荷物質の鉛や六価クロム等を含まない鋼材の開発・提供 など
		<p>移行 (評判)</p>	<p>自然・生物多様性の保全に対する社会的な関心やニーズの増加による、自然・生物多様性の保全活動が企業イメージに及ぼす影響力の増大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然・生物多様性の保全に関する活動の効果的発信による企業イメージの向上・製品の売上増加。 	<p>上記製品のPR強化(営業活動、学会やイベント、CMなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海の森づくりのCOP28での紹介  <p>ジャパンパビリオンで登壇する日本製鉄 技術開発本部 先端技術研究所 課長 小杉知佳</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 外部団体表彰受賞(地場間伐材を原料とした木質バイオマスの活用拡大)
		<p>移行 (評判)</p>	<p>自然・生物多様性の保全に関する地域住民を含むステークホルダーの注目度の高まり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然・生物多様性の保全に関する取り組みの実施・効果的な発信を行い、地域と良好な関係を構築することで地域での事業継続性向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 当社「環境基本方針」に基づき、エコロジー(生態学的)手法に基づく管理基準を制定し、「郷土の森づくり」を推進。 ● 「海の森づくり」による生態系サービス(漁獲量)の回復への貢献 ● 各事業所での地域対話、地域活動への参加、30by30活動への参画などの環境活動を推進  <p>当社緑地で確認されたアサギマダラ</p>